

公表

事業所における自己評価結果（児童発達支援）

事業所名	サクラサク		公表日		2025年 3月 21日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		状況に応じてパーティションなどで区切ることはあるが、教材などは別の場所に保管しているためスペースとしては余裕のある状況と思われる。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		児童全体の動きが見渡せるように配置数、環境を工夫している。	常勤職員の有給休暇や病欠に備え非常勤職員の確保を検討していく。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		月ごとのプログラムにより机やマットの位置などは変わるが、極力わかりやすいよう配置することを心がけている。	棚の角などのクッションが児童により割がされた場合、速やかに新しいクッションで保護する。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		児童たちが片付けた備品や絵本、おもちゃなども児童が帰宅後、改めて取り出して清掃している。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		部屋数が限られているが、必要に応じて個室をクールダウン用として使っている。それ以外はパーティションなどで囲う形で対応している。	個室を利用する場合は必ず職員がマンツーマンで対応するようにして目を離さない。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		毎日支援前のミーティングで行っている。参画の中で「児童を中心とした支援」における職員たちのビジョンの共有に取り組んでいる。	参画していく中で、職員間の支援に対するビジョンの共有に引き続き取り組んでいく。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		保護者からの要望、意見は事業所全体で共有するようにしている。	評価表だけではなく、送迎のタイミングでも保護者との対話を重要視し、得た情報は事業所全体で共有していく。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		職員とは定期的に面談機会を設けている。	職員の意見を尊重し、内容を検証、精査し業務改善にしっかりと反映させていく。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○	第三者評価は今のところ受けていない。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		開業時にリタリコ主催の研修を受けている。研修動画をいつでも受講できる体制を組んでいる。他事業所と合同研修を行っている。	まずは法定研修を的確に実施、それ以外にも安全面における研修を中心にやっていく。
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		リタリコ発達ナビにて公開している。	今後はホームページの開設をしてそこでの公開を検討している。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○		日々の支援を通じて感じたことを保護者と共有し、学校や他事業所での様子なども含めてニーズや課題を分析し計画作成を行っている。	半年に1回のモニタリングだけではなく、状況に応じて必要であれば臨機応変に計画の見直しを行っていく。
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		一人の利用児童に対して担当を決めず、職員全員の意見を聞き入れながら作成に取り組んでいる。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		作成後、職員に公表して共有している。個人情報に気を付けながらいつでも閲覧出来るようにしている。	状況に応じて必要であれば臨機応変に計画の見直しを行っていく。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。		○	標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントはまだ行っていないが、日々の行動観察からのアセスメントはしっかりと時間をかけてかなり深く行っている。	職員ごとの価値観、基準のすり合わせをしっかりととして標準化されるようにしていく。
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		今年度より5領域を全利用者の支援内容に盛り込んで計画を作成している。	相談支援事業所をはじめ、学校や他事業所との連携を深めていきたい。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		毎日の朝礼、支援前のミーティング時に職員全体で月ごとのプログラム、毎日の支援内容、方法を検討している。	特定のスタッフだけではなく全員の意見を尊重し、最善の支援ができるよう環境を整えていく。

供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		プログラムは月ごとに変えているが、日ごと利用児童が違うため、その都度臨機応変に対応、内容を変えている。	集団プログラムへの参加が難しい児童もいるためバリエーションを増やしていく。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○		主に集団活動が多いが、月ごとのプログラムの中に小集団で活動する機会を設けている。	集団プログラムへの参加が難しい児童もいるためバリエーションを増やしていく。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		朝の朝礼およびその後のミーティングにて昨日の振り返りと当日の支援について打ち合わせをしている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。		○		送迎等で退勤時間が合わないことがあるため、主に翌日の朝礼、ミーティング時に共有。急を要する場合はLINE等で職員全員が情報を共有できるようにしている。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		日々日報およびケア記録を取っている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		最低6か月に1回行っている。	保護者の要望や、支援にあたる職員からの意見を踏まえ臨機応変に行っていく。
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○			サービス担当者会議等があれば児童発達支援管理責任者に限らず可能であれば職員が参加できるようにする。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		障害福祉に理解のある協力医療機関と提携している。	その他の関係機関とは今後連携できるよう取り組んでいく。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		相談支援事業所利用の児についてはモニタリングの際に併行利用先との情報共有をしている。移行支援は該当時に対して今後行っていく予定。	相談支援事業所が絡んでいない児については主に保護者を通じて情報を得ている。今後必要であれば検討していく。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○			就学前の様子は主に保護者を通じて情報を得ている。今後必要であれば検討していく。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。		○		今のところ機会がないが、今後必要に応じて積極的に連携を持てるよう動いていきたい。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。		○		今のところ機会がないが、今後必要に応じて積極的に連携を持てるよう動いていきたい。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○			送迎時に保護者と話す機会があるがそれ以外に必要に応じて電話、メールにて状況の共有を図っている。
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		○		希望していない家族もいるが、状況に応じて情報提供を行っていき必要に応じて研修の必要性を検討していきたい。	
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○			契約時に説明を行っている。
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○			契約における面談などを通じて保護者の意向をヒアリングし、サービス等利用計画なども参考にしながら作成している。

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○		利用前に計画を説明し同意を得ている。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		全員ではないが一部保護者から相談がある場合は、相談内容を職員で共有し助言と支援を行っている。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		○		要望、必要に応じて今後検討していく。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		全員ではないが一部保護者から相談がある場合は、相談内容を職員で共有し助言と支援を行っている。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		HUGアプリを使って定期的に発信している。	今後はホームページの開設をしてそこの公開を検討している。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		鍵付きの書庫に保管するなど留意している。	HUGアプリなどに写真を提供する場合に他児童の映り込みや個人情報が分かるようなものが映り込まないよう気を付ける。
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		意思表示がまだ難しい児童には絵や写真、その他の方法を活用し表現を促すよう心がけている。	
非常時等の対応	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○		利用児童、保護者の意見を尊重しながら必要であれば今後検討していく。
	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		策定はしており研修・訓練も行っている。保護者にも閲覧できるようにしている。	送迎つきの事業所により保護者が来所する機会がほとんどなく見る機会がない。周知できるよう工夫する必要がある。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		策定はしており研修・訓練も行っている。	今後様々なことを想定した訓練を検討して実施していく。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		利用契約前に服薬や持病、アレルギーなどの情報提供は現況調査票にて必ず行っている。	契約後に変化があった場合は速やかに情報共有していただくよう保護者にも周知していく。
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		利用契約前に服薬や持病、アレルギーなどの情報提供は現況調査票にて必ず行っている。	契約後に変化があった場合は速やかに情報共有していただくよう保護者にも周知していく。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		作成しており、研修・訓練も行っている。	今後様々なことを想定した訓練を検討して実施していく。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		事業所玄関に安全計画を掲示している。	保護者への周知を掲示以外の方法を検討していく。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		毎朝の朝礼、ミーティング時に必ず前日の振り返りを行い必要であれば記録として残すようにしている。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		年に一度研修を行っている。研修以外にも日々の支援で不適切な対応があった場合は翌日の朝礼、ミーティングにて振り返る。	外部の研修を検討していく。
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○		契約時に説明を行っており、もしした場合は保護者へ説明するとともに記録を残すようにしている。	

公表

事業所における自己評価総括表（児童発達支援）

○事業所名	サクラサク		
○保護者評価実施期間	2025年 2月 1日		2025年 3月 15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数) 5
○従業者評価実施期間	2025年 2月 1日		2025年 3月 15日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月 21日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	机上トレーニング（認知・手先の巧緻性・マッチング課題）、リトミック、運動療育、学習プログラム、制作活動など、月ごとのプログラムを実施している。	月ごとのプログラムに対してマンネリ化せずに日々のミーティングにて振り返りを行い、子どもたちの状況に合わせて軌道修正し、臨機応変にカスタマイズしている。	非常勤職員の確保や、利用児童が通っている他事業所との連携を深め寄り一層支援の充実を図る。
2	保護者の意向を最優先に考え、個別支援計画書にしっかりと落とし込む。計画に基づき支援を行った結果、気づいた点、修正が必要な点などを日々のミーティングにてしっかりと洗い問題の解決に事業所全体で取り組む。	送迎管理システムを採用し事業所への入退室が保護者へ即座にアプリにて通知が行くように、また、利用の様子を写真付きで報告することで保護者が安心して利用できるような心がけている。	それぞれの職員が培ってきたスキルや知見などをナレッジシェアする機会を定期的に設ける。
3	集団療育と個別療育を子どもたちの個性に合わせて臨機応変に実施し、相互のメリットを最大限に活かすようにしている。	視覚情報として、華美な装飾は控え、必要な情報（一日の流れ、時間など）がわかりやすいよう配慮している。	集団プログラムに参加できない子どもたちに対してのセカンドプログラムを充実させる。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	開所一年のため、まだ地域関係機関および他事業所との連携面が弱く、子どもたちの支援につながるような協力体制を強化する必要がある。	支援学校と支援級など送迎時の伝達のみのコミュニケーションしか取れていない、学校によっては担任先生と話す機会があまりない。	まずは保護者に協力を得て学校および他事業所との連携を図る必要がある。 行政主催の合同会議、研修などがあれば積極的に参加し、交流を図る。
2	父母の会の活動の支援や、保護者等の開催等により、保護者同士の交流の機会や、きょうだい向けのイベントの開催が出来ていない。	保護者からのニーズの聞きだしをする機会をほとんど設けていない。数名の聞き取りから希望しない声が多く、隠れたニーズの聞きだしに至っていない。	まずは保護者同士が顔を合わせるイベントなどを企画していく。
3			